

# 新たな台風情報の具体例 及び利用上の留意事項等

大きな被害をもたらした過去の台風での情報発表イメージをもとに、新たな台風情報の利活用方法や利用上の留意事項等について議論する。

# 新たな台風情報の具体例

※以降の具体例については、過去の事例において実際にシミュレーション計算を行った結果に基づき、現時点で2030年に向けて提供可能と思われるイメージを示したものであり、今後詳細を検討していく中で変更される場合がある。

# 台風シーズンを通した見通し情報（令和元年の台風の事例）

➤ 台風が平年より発生しやすいかどうか、長期的な見通しを把握可能となる。

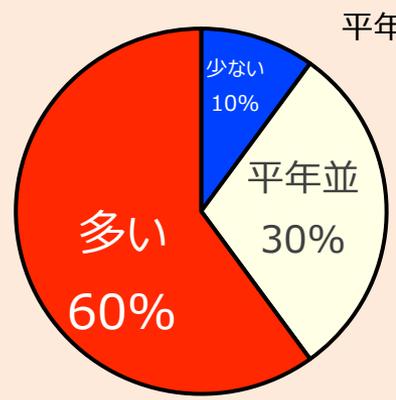


**【新たな情報イメージ】**  
7月時点で、8～10月の台風発生数が平年より多い見通しを発表

向こう3か月（8～10月）の台風見通し

- 向こう3か月の台風発生数は平年より多い見込み。
- エルニーニョ現象は春に終息したとみられ、6月頃までの台風の発生しにくい海洋と大気の状態は次第に解消する。

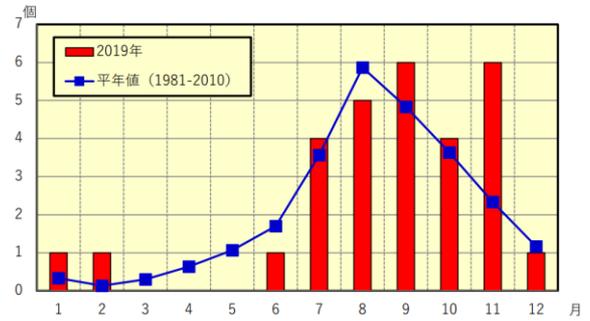
令和元年8～10月の台風発生数の確率



**台風シーズン前に  
備えを促すことができる**

**【現状】  
情報なし**

**【当時の発生状況】**  
春まで続いたエルニーニョ現象の影響で3～6月中旬は台風の発生がなかった一方、7月以降の発生数は26個と平年の21個を上回った。



令和元年の月別発生数  
赤：発生数、青：平年値（1981～2010年の30年平均値）

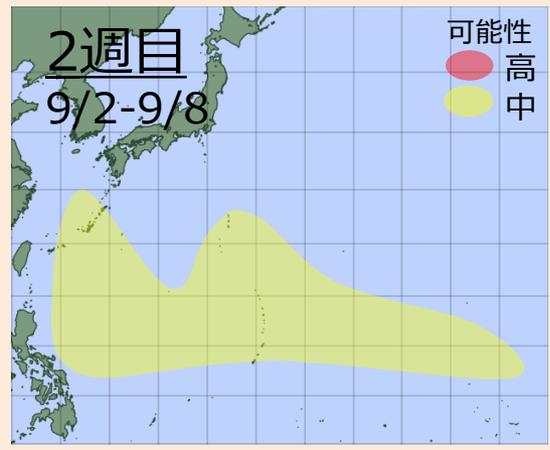
# 2週間先までの見通し情報（令和元年房総半島台風の事例）

➤ 台風発生の可能性の高まりについて早い段階から把握可能となる。



**【新たな情報イメージ】**  
 発生2週間前の8月24日に、2週目（9/2-9/8）は台風が発生・存在する可能性が普段より高くなると発表

フィリピンの東から日付変更線付近にかけて台風が存在する可能性が普段より高く、日本でも台風の影響を受ける可能性があります。



**【現状】**  
 情報なし

**【当時の発生状況】**  
 日本の南海上で、9月2日に台風第13号、9月5日に台風第15号が発生

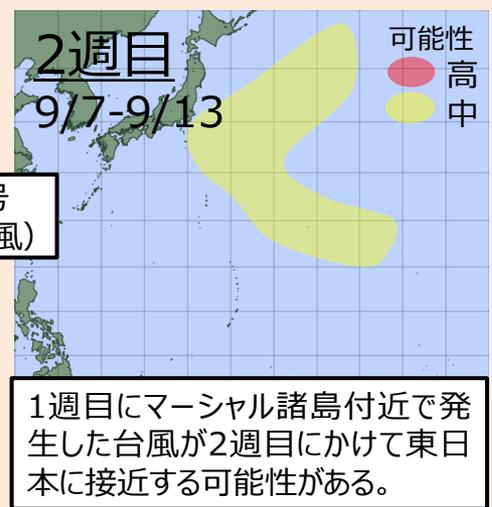
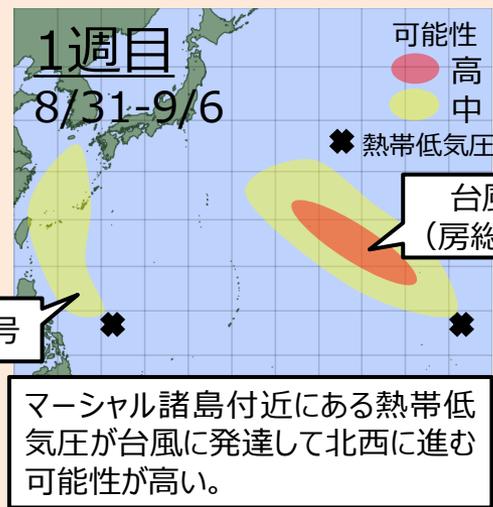


# 2週間先までの見通し情報（令和元年房総半島台風の事例）

- 台風発生・接近の可能性の高まりについて早い段階から把握可能となる。
- 令和元年房総半島台風のように発生から上陸までの期間が短い場合は特に有用。



**【新たな情報イメージ】**  
 発生1週間前の8月30日に、  
 今後2週間（8/31-9/13）  
 で台風が発生して東日本に接  
 近する見通しを発表



**台風に備えるリードタイムを  
 今より1～2週間長く確保できる**

**【現状】**  
 台風発生の24時間前に  
 最初の情報を発表（熱帯  
 低気圧が24時間以内に  
 台風に発達する見込み）



# 予報円・暴風警戒域の情報 (令和元年房総半島台風の事例)

- 関東付近の接近・上陸のタイミングを絞ることが可能となる。
- 関東付近で北西寄りに膨らんだコースを取る可能性を把握可能となる。

発生

情報発表

上陸

9月5日

上陸2日前  
9月7日15時

9月9日

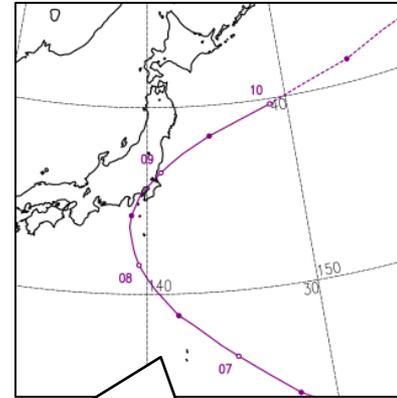
【新たな情報イメージ】  
6時間刻みの進路・強度予報を発表



【現状】  
24時間刻みの進路・強度予報を発表



【実際の経路】



9月9日3時前に三浦半島付近を通過、同5時前に千葉市付近に上陸

— 暴風域・暴風警戒域  
— 強風域・強風注意域  
— 予報円

# 風分布の情報（令和元年東日本台風的事例）

- 強風域の予報を開始し、暴風域・強風域の実況・予報をより適確に把握可能となる。
- 各地域の危険度を色分けした時系列等においても、暴風・強風が吹く時間帯をより適確に把握可能となる。



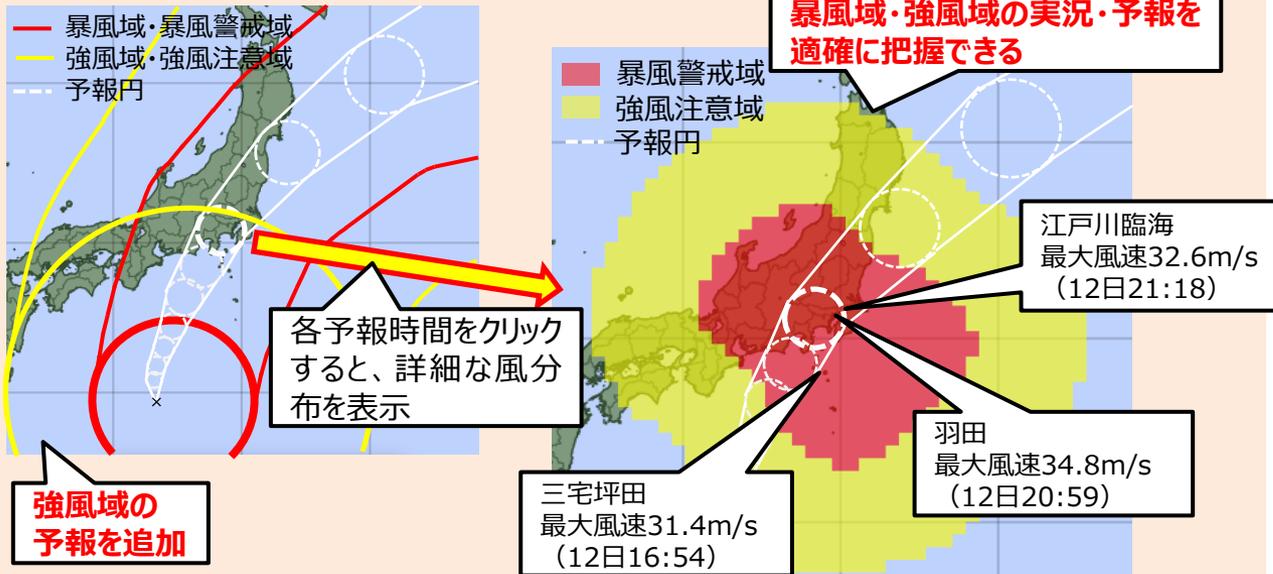
10月6日

上陸1日前  
**10月11日**

10月12日19時前

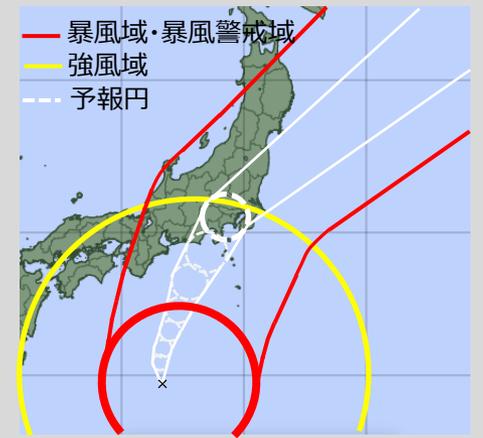
## 【新たな情報イメージ】 円形に基づく暴風警戒域に加えて、詳細な風分布を発表

上陸 1 日前の24時間先の予報



## 【現状】 円形に基づく暴風警戒域を 発表

上陸 1 日前の24時間先の予報



# 高潮・波浪の情報（令和元年東日本台風の事例）

- 5日前から高潮、高波の危険性を把握可能となる。
- 海岸線に沿った表示とすることで、視覚的にも分かりやすい情報となる。

発生

情報発表

上陸

10月6日

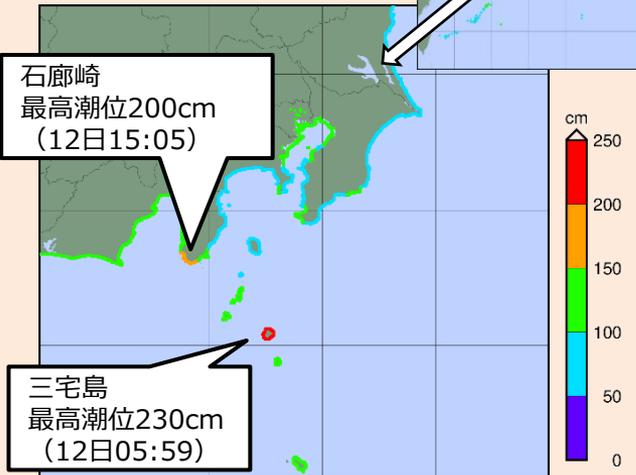
10月7日

10月12日19時前

【新たな情報イメージ】  
5日先までの高潮・波浪の分布情報を発表

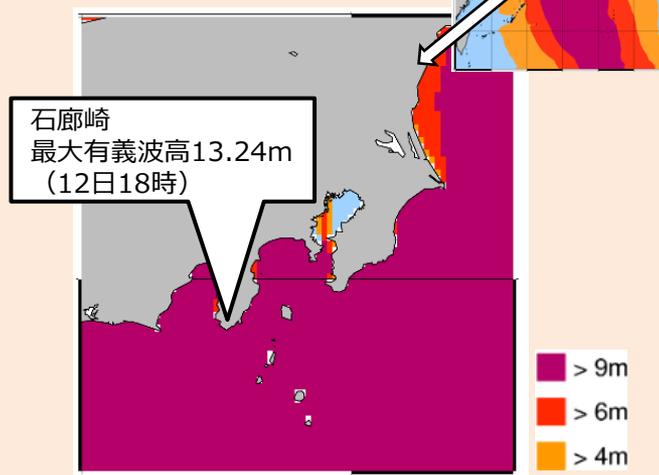
5日先までの最大潮位

全国地図から範囲を絞って拡大も可能



5日先までの最大波高

全国地図から範囲を絞って拡大も可能



【現状】  
高潮・波浪の情報は  
1～2日先まで提供

【当時の観測状況】  
石廊崎で13メートルを超える記録的な高波。三宅島などでは、潮位230センチなど、過去最高潮位を超える値を観測。

# 温帯低気圧化/熱帯低気圧化後の情報（令和6年台風第14号の事例）

- 台風が低気圧化（温帯低気圧化・熱帯低気圧化）後に、引き続き日本に影響を及ぼすような場合には、元の台風と紐づいた情報を把握可能となる。

発生

9月15日

温帯低気圧化

情報発表

9月21日

## 【新たな情報イメージ】

低気圧化後の「全般気象解説情報」電文※に、元の台風番号などを埋め込むことで、元の台風と紐づいた情報を発表

また、低気圧化後の実況・予想位置等の情報を台風情報と一体的に図表示できるよう、情報の提供方法を検討

台風情報（台風経路図）

【リンク】台風から変わった温帯低気圧に関する情報を発表中

低気圧化後は全般気象解説情報や天気図へのリンクを追加

情報のタイトルに元の台風番号を付加

令和6年 台風第14号から変わった温帯低気圧に関する情報  
令和6年9月21日 x x時 x x分 気象庁発表

（本文）

台風第14号は、21日15時に黄海で温帯低気圧に変わりました。  
22日は、台風第14号から変わった温帯低気圧が日本海から三陸沖へ進み、東北地方から西日本の広い範囲で、警報級の大雨となるおそれがあります。

※令和8年度の防災気象情報の体系整理に伴い  
新設予定の情報

## 【現状】

低気圧化後は、大雨や暴風に関する気象情報として警戒を呼びかけ

台風情報（台風経路図）



# 新たな台風情報の活用例及び留意事項

---

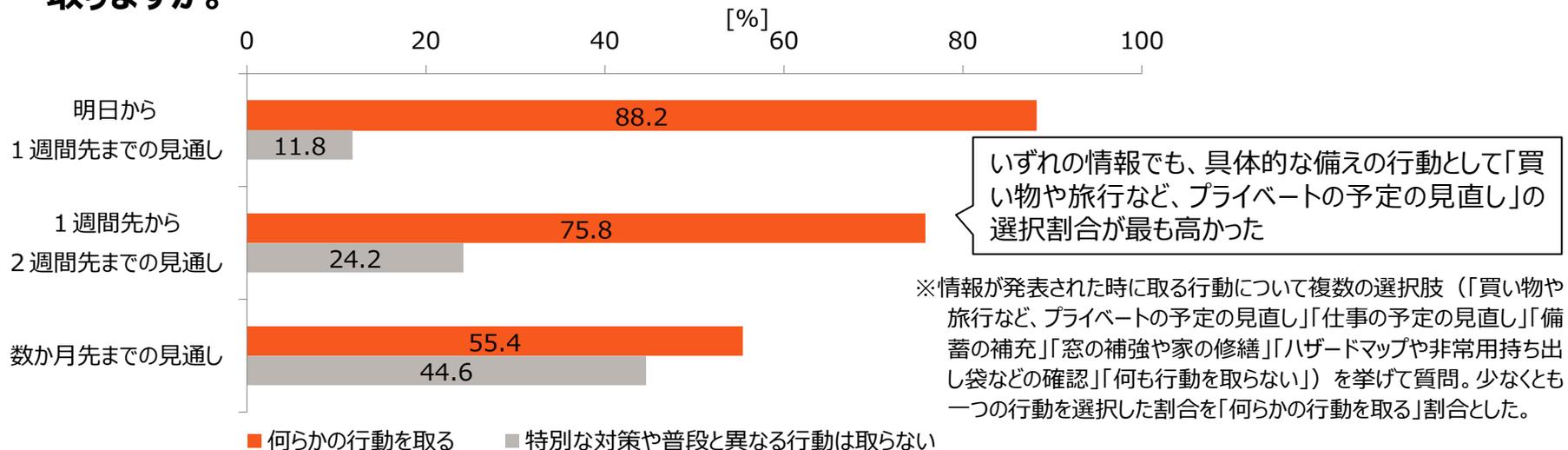
- 新たな台風情報の活用例等を検討するにあたり、令和6年7月～令和7年1月のヒアリングで把握した企業・団体等のニーズに加え、一般住民のニーズを把握する目的で、令和7年3月に一般住民向けのアンケート調査を実施。
  - ✓ 調査対象：全国の20代、30代、40代、50代、60代以上の男女
  - ✓ 調査方法：インターネット調査（インターネット上のWEB画面に用意した質問に回答する方式）
  - ✓ 有効回収数：配布2,000／有効回収2,000サンプル（性別・年代・居住地（都道府県）の人口構成比に合わせてサンプル数を調整）

※調査項目の検討にあたり、筆保座長、高数副座長のご協力をいただいた。

## 【一般向けアンケート：「早めの備えを促す情報」への受け止め】

- 時間スケールが長い情報ほど一般住民のニーズは減るが、最も長い数か月先までの見通し情報についても半数以上の方が備えの行動を取ると回答。

## 台風発生前から3つの時間スケールの台風の見通し情報が発表された場合、それぞれ何か行動を取りますか。



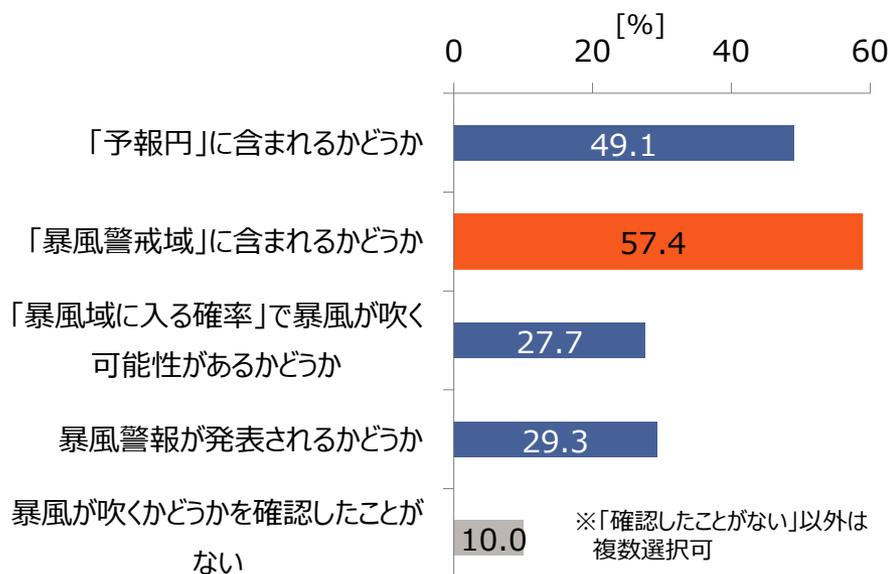
⇒新たな情報は、企業・団体だけでなく、一般住民に対しても台風シーズン前への備えや、台風発生・接近への備えを促す効果が期待できる。

# 一般住民のニーズ把握（風に関する情報）

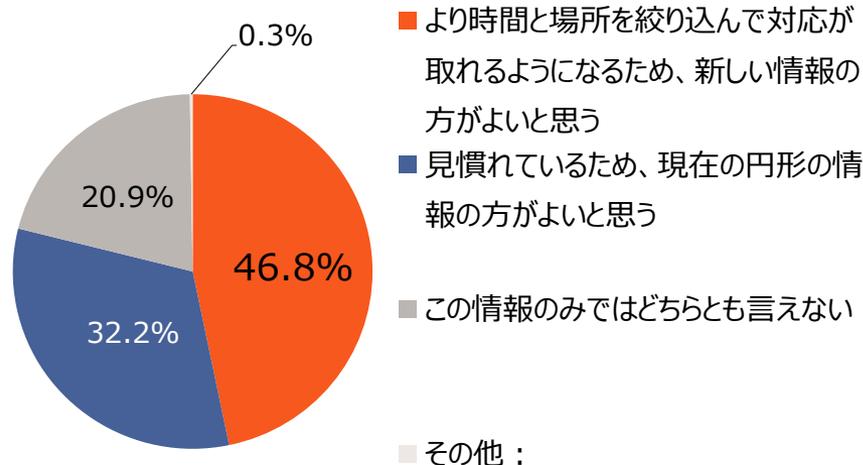
【一般向けアンケート：暴風に関する情報と、詳細な風分布への受け止め】

- 暴風が吹くかどうかの判断に暴風警戒域を用いる方が多い。
- 「詳細な暴風・強風域の情報がよいと思う」割合が 5 割程度と最も多い一方、「現状の円形の情報がよい」割合も 3 割程度。

台風が接近するとき、見通しを知りたい地域に「暴風が吹くかどうか」をどう判断していますか。



現在は円形で示している暴風・強風域を、詳細な分布で示す新しい情報をどう思いますか。



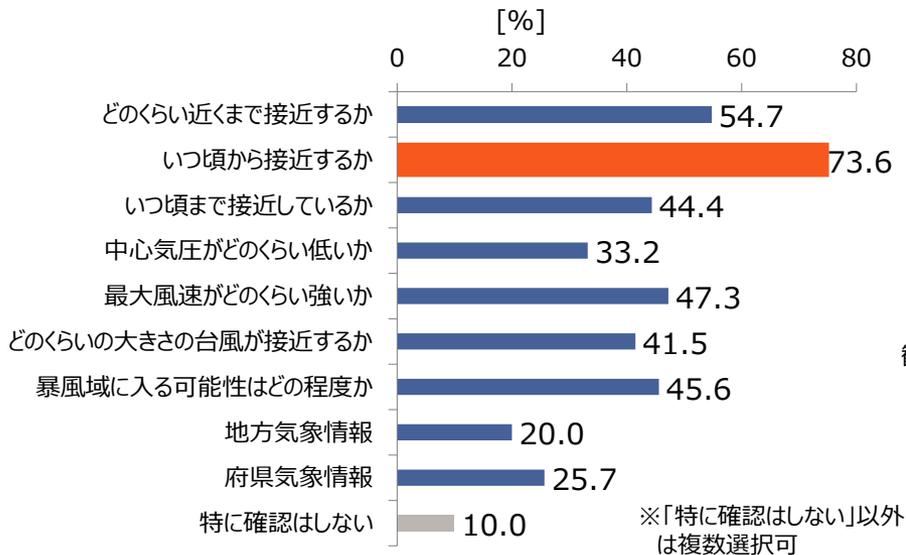
⇒ 現状の円形の暴風・強風域の情報は引き続き提供するとともに、新たに詳細な風分布情報を提供することで、一般住民に対しても**台風接近・上陸へのきめ細かな対応を支援する**効果が期待できる。

# 一般住民のニーズ把握（現状の台風情報等の活用状況）

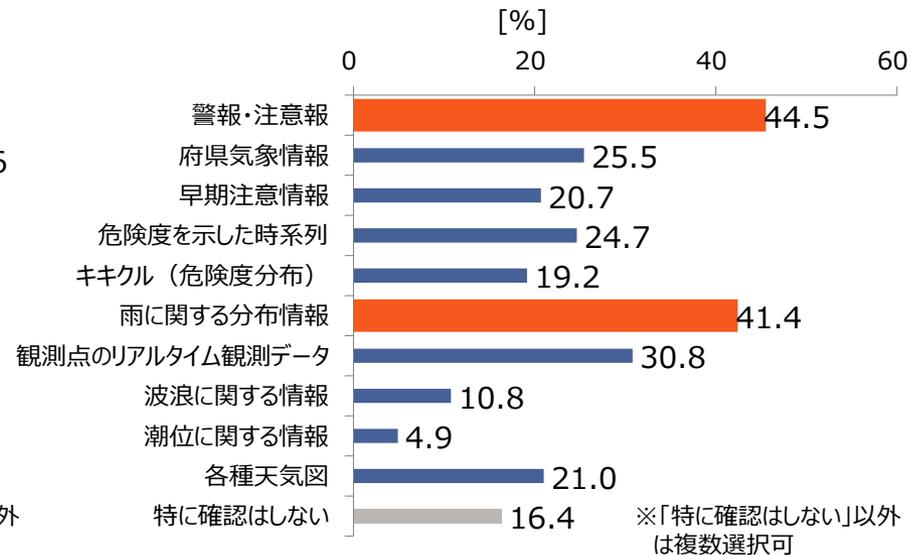
## 【一般向けアンケート：現状の台風情報等の活用状況】

- 現状の台風情報のうち、台風がいつ頃から接近するかの情報が重視されている。
- 現状の台風情報以外の情報のうち、警報・注意報等の防災気象情報や雨に関する分布情報が確認されている。

### 台風が接近するとき、現状の台風情報のうち、どのような情報を確認しますか。



### 台風が接近するとき、台風情報以外のどのような情報やデータを確認しますか。

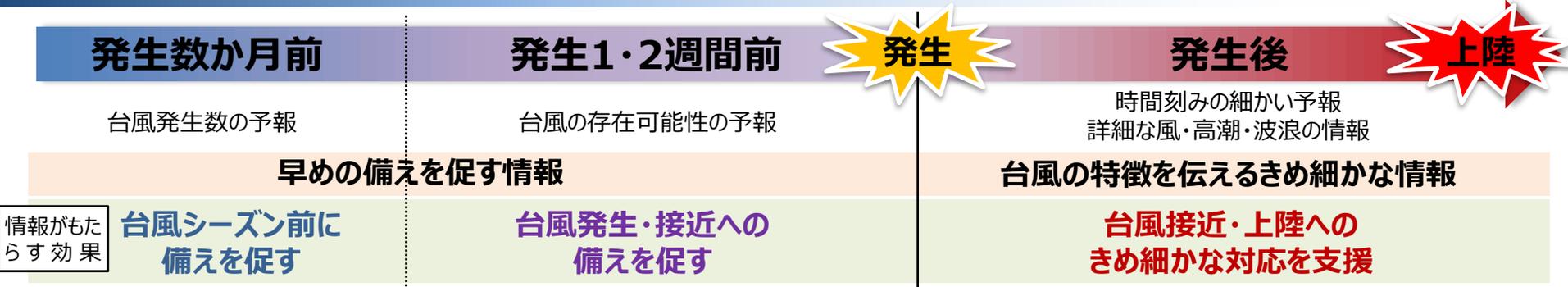


⇒ 予報の時間間隔が詳細になる台風情報や時系列情報を提供すること、様々な情報にアクセスしやすくすることで、一般住民に対しても台風接近・上陸へのきめ細かな対応を支援する効果が期待できる。

# 新たな台風情報の利活用例と留意事項

早めの備え  
を促す情報

きめ細かな  
情報



## 一般住民の利活用例（アンケート結果より）

- ・ 買い物や旅行など、プライベートの予定の見直し
- ・ 備蓄の補充
- ・ 窓の補強や家の修繕
- ・ ハザードマップや非常用持ち出し袋などの確認

- ・ 風雨が強くなるタイミングや期間、実際にどこで災害発生の危険度が高まっているかを確認し、早めに行動

## 企業・団体等の利活用例（ヒアリング結果より）

- ・ 保険事故の発生に備えた対応計画の準備、防災啓発
- ・ 工程・休工期間の検討

- ・ 離島における工事の中止・避難判断
- ・ 安全性や燃費を考慮した運航計画の検討
- ・ 様々な事前対策や防災対応に向けての早めの備え（航空や船舶の運航計画検討、工事中止、農作業のタイミング等）

- ・ 様々な事前対策や防災対応の実施判断（公共交通機関の計画運休、道路の通行止め、工事中止、農作業のタイミング等）

- ・ 広域避難の判断
- ・ 迅速な復旧作業
- ・ 波浪の情報に基づく船舶の効率的な運航
- ・ 高潮に対する防災対応

## 利用上の留意事項

- ・ 精度は時間が先になるほど低くなるため、精度を踏まえた利用が必要
- ・ 数か月先までの発生数の予報には接近・上陸の情報は含まれていない

- ・ 警報・注意報や危険度を色分けした時系列で警戒すべき時間帯や、キキクルで災害発生の危険度が高まっている場所を確認し、それを基に行動が必要

## 検討事項

- 新たな情報の利活用方法や利用上の留意事項等について